

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19H00577

研究課題名（和文）気候変動と水資源をめぐる国際政治のネクサス - 安全保障とSDGsの視点から

研究課題名（英文）International Political Nexus of Climate Change and Water Resources:

研究代表者

藤原 帰一（Fujiwara, Kiichi）

東京大学・大学院法学政治学研究科（法学部）・名誉教授

研究者番号：90173484

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 35,650,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、気候変動による自然の衝撃が社会を不安定化させるプロセスをグローバルサウスの事例研究から詳細に検証すると同時に、気候変動対策をめぐる国際的な議論をマクロレベルでとらえることで、気候変動安全保障論および気候変動レジリエンス論を検討した。マクロレベルではリスクマネジメントの観点から気候変動をとらえる国際動向および各国の対応策の現状を分析した。メソレベルでは水紛争に関するデータベース分析および、中東、南アジア、アフリカを対象として政策決定者や住民への聞き取り調査を行った。ミクロレベルでは、南アジアおよび東南アジアでの貧困世帯住民への聞き取り調査を実施して水資源の利用状況をとらえた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、気候変動による自然の衝撃が社会の不安定化につながるプロセスを、政治的、経済的、文化的な文脈の中で包括的にとらえ、日本ではまだ始まったばかりである気候変動政治の議論を提起した点にある。研究成果を共著書籍『気候変動は社会を不安定化させるか 水資源をめぐる国際政治の力学』（日本評論社）にまとめて出版し、公開シンポジウムを開催したことによって、学术界のみならず社会的な議論喚起にも貢献した。

研究成果の概要（英文）：This research examined in detail the process by which stresses caused by climate change destabilize societies in the Global South, and at the same time, examined climate change security theory and climate change resilience theory by considering the international debate on climate change countermeasures at the macro level. At the macro level, we analyzed international trends in climate change from the perspective of risk management and the current status of countermeasures in each country. At the meso-level, we analyzed databases on water conflicts and conducted interviews with policy makers and residents in the Middle East, South Asia, and Africa. At the micro level, interviews with poor households in South and Southeast Asia were conducted to understand the use of water resources.

研究分野：国際政治学

キーワード：気候変動安全保障 気候変動レジリエンス グローバル・ガバナンス論 持続可能な開発目標（SDGs）
水資源

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

21世紀に入って「気候変動政治 (Climate Change Politics)」への関心が高まり、国際政治学・国際関係論においても関連する学際研究が求められる時代を迎えた。洪水、干ばつ、台風、熱波などの異常気象が人々の生活を脅かす規模と頻度が増加していることにとともに、気候変動による自然の衝撃が社会を不安定化させて武力紛争に発展させるのではないかというリスクが懸念されているのである。ただし、自然環境の悪化は必ずしも紛争の直接的な要因になるわけではない。水資源を独占しようとする資源獲得競争や異常気象への対応を利用しようとする政治の思惑が、社会の不安定化を招き寄せる。他方、国家や草の根社会による緩和と適応が自然の衝撃を和らげ、社会の安定を取り戻すこともある。

しかし、議論の土台となるべき自然科学の領域でも測定・判断・予測などをめぐり、必ずしも見解は一致していない。当然、自然科学を基礎に議論を進めようとする社会科学の側では意見が分かれ、市場の利益や政治的立場などを反映して、合意形成は容易ではない。だが、注目すべきなのは、こうした混乱にもかかわらず、自然環境の悪化を緩和し、国際社会として事態に対応しようとするいくつかの動きが、諸国家や市民社会の協力によって前進してきた事実である。パワー・ポリティクスとは異なる次元で、グローバルな「気候変動政治」が展開されてきたと言える。

グローバル・ガバナンスやEUガバナンスのような方向性が目立つようになると、その反作用のように、個々の国家の姿勢が問われ始める。イギリスの社会学者アンソニー・ギデンズは、自著『気候変動政治』(2009)において、国際社会で先進的な環境政策が示されても、それを実践するのはそれぞれの国家であるし、自国のイギリスを例に、国内の政策決定過程や外交政策の展開こそが重要だと論じた。「気候変動政治」における「国家の復権」である。先進国での流れと並行して、途上国側でも「国家の復権」が注目された。苛酷な自然が貧困を加速する「脆弱国家」や「失敗国家」において、武装組織の拡大、武力紛争、難民や移民の発生などの問題が噴出し、国家のガバナンス能力の是非が論じられたからである。しかも、途上国の矛盾は、難民・移民の流入やテロリズムの形で先進国に持ち込まれる。気候変動と自然環境の変化によって貧しい社会が混乱し、政治的不安定や紛争が惹起され、国際社会の支援や介入が必要となるのか、というネクサスが真剣に検討されてきた。

このように、未だに明確な解答のない「問い」ではあるが、気候変動とそれに深く関わる自然の変化は、現実の社会や政治の変動を扱う地域研究はもちろん、国際政治学・国際関係論の分析にとっても共通の課題となっている。本研究では「気候変動安全保障」概念を検討し、不足の懸念される「水資源」に着目しながら、国際社会でもっとも重視される目標としての「安全保障」と「SDGs」の視点から、地域研究や気候工学などと連携して気候変動をめぐる国際政治のネクサスを捉え、グローバルなガバナンスと地域、国家、草の根社会をリンクする政策的な構想を探究する。

2. 研究の目的

これまで学術的に大きく隔たっていた気候変動研究と国際政治学・国際関係論を、地域研究や社会学を媒介としながら架橋し、以下のような論点を抽出する。

(1) 気候変動と安全保障の接合: 「気候変動安全保障」論の提起

本研究では、国家主権や軍事力と結びつく古典的な安全保障の概念と並んで、「エネルギー安全保障」「水資源の安全保障」「食糧安全保障」など、多くの新しい安全保障概念とも関連する「気候変動安全保障」概念の有効性を検討する。気候変動と結びつく自然災害(熱波・寒波・台風・ハリケーン・洪水・干ばつ・海面上昇など)や、水不足・食糧不足・衛生環境悪化といった被害に対して、ガバナンス能力とリソースを備えた責任ある政府が存在すれば、住民は保護と救済を期待できる。逆にそうでない場合、資源や安全をめぐるゼロ・サム状況が蔓延し、無秩序社会が到来する恐れもある。この二種の国家と社会が緊密な関係性に置かれているのがグローバリゼーション時代の国際社会であり、「人間の安全保障」の視点から、国家の提供する安全保障の限界を問い直しつつ、新たに「気候変動安全保障」論を提起する。

(2) 気候変動と「SDGs」の接合: 「気候変動レジリانس」論の検討

気候変動とその影響は、単線的なものではなく、多くの要素の関係性から構成される複合的なメカニズムである。自然が山脈・平地・河川・砂漠・湿地など多様な形態を取っている限り、熱波や寒波、ハリケーン・洪水・干ばつなどの影響も一様には帰結しない。本研究では、水資源をめぐる複合的なメカニズムとしてアジア・中東・アフリカ・ラテンアメリカの事例を分析し、入手可能なデータを加えつつ、国家と草の根社会のガバナンス能力とそのリソースを支える社会経済基盤・政治的条件を比較し、「気候変動レジリانس」論とそのスペクトラムを作成する。

(3) 気候変動と国際政治の接合: 「気候変動グローバル・ガバナンス」のモデル化

気候変動についての情報共有や政策協力を求めて、国際社会、地域、国家、草の根社会をつな

ぐ過程が進んでいる。国連気候変動枠組条約締約国会議（COP）、国連環境計画、EU や他の地域機関、河川管理の国際体制、海上安全保障ネットワーク、さらに NATO などの集団的安全保障のしくみ、各国の行政機関や警察・軍事組織、市場を担う企業、NGO や個人から成る市民社会、メディアなど、グローバルな対応には多様な主体とリソースの連携が不可欠である。そうした政策過程で、環境規制・環境外交・海外援助の知識と技術を持つ、日本や他の先進諸国の役割は重要であり、開発援助・紛争防止・災害救済などと絡めて、途上国を包括した体制を構築できるかが問われている。エネルギー消費拡大に熱心な中国やインドなど、開発を優先する新興国の対応も一つの論点である。本研究では、国際行政・国際技術協力・国際リスク管理などの観点から、安全保障と「SDGs」とを結び付けた「気候変動グローバル・ガバナンス」のモデル化をめざす。

3. 研究の方法

全体の連携を図る総括班とマクロ（グローバル）・メソ（地域・国家間）・ミクロ（国内・草の根）・グローバルのアプローチとイシューによって分類した4つの研究班を置く。各班はコンパートメント化を意味せず、理論研究・事例調査を行う上で協力を築く土台となる。各班の実証研究を踏まえ、総括班はグローバルな観点からの比較と総合を推進する。

研究分担者は、担当する研究課題について、資料収集、現地調査、面接調査、その他の研究調査を実施し、事例分析、理論仮説の構築、研究方法の開拓などに貢献する。

総括班として各年度2回（7月・11月予定）に開催し、各班の進展状況・中間報告・成果報告を行う。知識・情報の共有、方法の検討、仮説構築をめざす。

国際政治学・国際関係論を基盤に、地域研究・社会学・気候科学などとの学際的連携を構築する上で、国内・国外から専門的な研究を行うリソース・パーソンを招き、学際・国際ワークショップを各年度2回開催する。

4. 研究成果

マクロ研究班は資料調査・統計調査として、リスクマネジメントの観点から気候変動をとらえる国際動向および EU 諸国と日本およびシンガポールを事例として各国の対応策の現状を分析した。メソ研究班は、水紛争に関するデータベースを分析および、中東、南アジア、アフリカ、ラテンアメリカを対象とする地域研究の観点からの既存研究分析を行ったうえで、政府機関の担当者への聞き取り調査およびウガンダの難民定住地での訪問調査を行った。ミクロ研究班は、南アジアおよび東南アジアでの住民の水資源利用に注目し、フィリピンのマニラ首都圏の貧困世帯を対象として水供給に関する聞き取り調査を実施した。

2020 年度以降は新型コロナウイルスの感染拡大により研究チームによる現地調査はかなわなかったものの、フィリピンでは現地 NGO の協力を得てマニラの低所得層約 800 世帯を対象とした水の供給に関する調査を、シンガポールでは政府機関等へのオンラインインタビューを行った。

国レベルでの分析として、インドの事例からは洪水発生後の住民支援が政党の支持獲得競争に利用されるプロセス、アフリカ・サヘル地域の事例からは砂漠化および干ばつに際して農業に傾注した政策が農民と牧畜民の対立を生むプロセスを描き出し、気候変動による自然災害が政治化され、ときに暴力紛争に発展するメカニズムをとらえた。

地域レベルでの分析として、フィリピン首都圏に代表される都市部では貧困地域での水の供給を違法組織が担うなど、政府のガバナンスがおよばない領域にインフォーマルセクターによるガバナンスが浸透している状況が明らかになった。

一方で、イギリスやシンガポールでは先進技術を用いた未来予測が行われており、気候変動による自然の衝撃が社会不安を招く地域と緩和される地域との格差はますます広がることが予想される。さらに、ヨルダン川沿岸では水供給安定化政策がむしろイスラエルとパレスチナの水アクセスの格差を拡大しており、水資源政策が政治的軋轢を生むリスクもはらんでいる。

世界6 地域を対象とする比較研究によって、気候変動による環境変化に同じようにさらされながらも、土地や水をめぐる対立が紛争の発生あるいは悪化につながる地域と、社会への衝撃を緩和できている地域との格差がますます拡大していることが鮮明になった。

研究成果はオンライン・シンポジウムや学会発表、論文にまとめて公開するとともに、2022 年 11 月に共著書籍『気候変動は社会を不安定化させるか』（日本評論社）として出版した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計44件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 錦田愛子	4. 巻 541号
2. 論文標題 諦めと期待の狭間で 関係正常化に対するパレスチナ自治区住民の反	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 34-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 錦田愛子	4. 巻 131号
2. 論文標題 国家主権の外側にある者の危機 COVID-19禍におかれた移民 / 難民およびパレスチナ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 法学政治学論究	6. 最初と最後の頁 27-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 錦田愛子	4. 巻 -
2. 論文標題 パレスチナ問題 ナクバはどう記述されるのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 吉澤誠一郎監修、石川博樹・太田淳・太田信宏・小笠原弘幸・宮宅潔・四日市康博編著『論点・東洋史学 アジア・アフリカへの問い158』	6. 最初と最後の頁 259-268
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 錦田愛子	4. 巻 -
2. 論文標題 難民危機を振り返る シリアの変貌と海を渡った人びと	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西尾哲夫・東長靖編著『中東・イスラーム世界への30の扉』	6. 最初と最後の頁 259-268
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 和田毅	4. 巻 -
2. 論文標題 グローバル・スタディーズ・イニシアティブ (GSI) 国際卓越大学院の立ち上げの経緯	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 駒場の70年 1949-2020 法人化以降の大学像を求めて	6. 最初と最後の頁 121-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 錦田愛子	4. 巻 -
2. 論文標題 「第9章 外部介入」「第10章 人の移動」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 今井宏平編『教養としての中東政治』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 城山英明	4. 巻 -
2. 論文標題 「社会における科学技術のガバナンスの専門家の役割」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 電気学会倫理委員会編『鋼鉄と電子の塔：いかにして科学技術を語り、科学技術と歩むか』	6. 最初と最後の頁 178 - 214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 城山英明	4. 巻 -
2. 論文標題 グローバル保健ガバナンスとは何か？	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 城山英明編『グローバル保健ガバナンス』	6. 最初と最後の頁 4 - 34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Heng Yee-Kuang	4. 巻 -
2. 論文標題 Small States	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Oxford Research Encyclopedia of International Studies	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/acrefore/9780190846626.013.545	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 錦田愛子	4. 巻 2
2. 論文標題 シリア難民をめぐる危機のグローバルな波及 交錯する時間軸と関係性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 松永泰行編『関係性の中の危機と国家』シリーズ グローバル関係学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yee-Kuang Heng	4. 巻 13 No. 4
2. 論文標題 The sustainability turn in UAE-Japan relations	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Contemporary Arab Affairs	6. 最初と最後の頁 89-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 錦田愛子	4. 巻 -
2. 論文標題 多文化主義 イスラエル左派運動とシオニズムの桎梏	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 浜中新吾編『中東政治研究の最前線：イスラエル／パレスチナ』	6. 最初と最後の頁 31-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 錦田愛子	4. 巻 -
2. 論文標題 中東政治と難民問題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鈴木董・近藤二郎・赤堀雅幸編 『中東・オリエント文化事典』	6. 最初と最後の頁 62-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 錦田愛子	4. 巻 -
2. 論文標題 海外事情・ドイツ 主張し行動する積み重ね	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『都政新報』「共生協働のヒント：多文化共創出社会へ24」	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 錦田愛子	4. 巻 -
2. 論文標題 90倍の入場料ペトラ遺跡	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 三田評論	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 錦田愛子	4. 巻 171
2. 論文標題 遠ざかる和平交渉、独立の夢 取り残された難民たち	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊アラブ	6. 最初と最後の頁 12-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 錦田愛子	4. 巻 3月号930号
2. 論文標題 忘れられたパレスチナの声を届ける 渡辺丘著『パレスチナを生きる』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 260-261
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 華井和代	4. 巻 18
2. 論文標題 アフリカにおける気 候変動と紛争	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 SRID ジャーナル	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nazia Hussain	4. 巻 -
2. 論文標題 'Economies of Violence', a report for the International Panel on Exiting Violence	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 the Fondation Maison Sciences de l'Homme and financed by Carnegie Endowment,	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mio Minoru, Nakamizo Kazuya, Fujikura Tatsuro	4. 巻 -
2. 論文標題 The Dynamics of Conflict and Peace in Contemporary South Asia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Dynamics of Conflict and Peace in Contemporary South Asia: The State, Democracy and Social Movements,	6. 最初と最後の頁 3-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中溝和弥	4. 巻 697
2. 論文標題 コロナ禍と惨事便乗型権威主義ーインドの試練	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中溝和弥	4. 巻 66-2
2. 論文標題 Dismantling Democracy: The 2019 Indian General Election and the Formation of the 'BJP system	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 76-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiromu Shimizu	4. 巻 -
2. 論文標題 Dynamic Resilience of Ayta Community: Creative Rehabilitation After Mt. Pinatubo 's Eruption, 1991	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Resilience and Human History: Multidisciplinary Approaches and Challenges for a Sustainable Future	6. 最初と最後の頁 147-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉山昌広	4. 巻 26号
2. 論文標題 気候工学 (ジオエンジニアリング) に関わる専門家とそのコミュニティー - 日米と欧米の違いの一考察 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 環境社会学研究	6. 最初と最後の頁 26-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永野 和茂	4. 巻 66
2. 論文標題 カッチ・シンド国境問題におけるインド、パキスタンの国際関係 カッチ湿地紛争と国境画定過程の事例分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11479/asianstudies.66.3_1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Vindu Mai Chotani and Shutaro Sano	4. 巻 Volume 3, No. 3
2. 論文標題 Untapped Potential between India and Japan in the Indo-Pacific Pursuing International Military Education	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Indo-Pacific Affairs	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Vindu Mai Chotani	4. 巻 -
2. 論文標題 Japan's Response: From Abe to Suga	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Mapping the Belt and Road Initiative: Reach, Implications, Consequences, Editors - Harsh V. Pant and Premesha Saha, Observer Research Foundation Monograph	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Vindu Mai Chotani and Yoichiro Sato	4. 巻 -
2. 論文標題 Quality Infrastructure Lending in the Indo-Pacific	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Japan Times	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Vindu Mai Chotani and Yoichiro Sato	4. 巻 -
2. 論文標題 Japan and Quad 2.0: three key challenges going forward	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asian Power Watch	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Vindu Mai Chotani	4. 巻 -
2. 論文標題 Leading from the Kantei: Japan and the Quad	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Tokyo Review	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Vindu Mai Chotani	4. 巻 -
2. 論文標題 Re-envisioning the Future of Asian regionalism in the Post-COVID-19 Era	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Columbia Journal of International Affairs	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 錦田愛子	4. 巻 2
2. 論文標題 シリア難民をめぐる危機のグローバルな波及 交錯する時間軸と関係性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 松永泰行編 『「境界」に現れる危機』シリーズ グローバル関係学	6. 最初と最後の頁 131-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 錦田愛子	4. 巻 -
2. 論文標題 多文化主義 イスラエル左派運動とシオニズムの桎梏	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 浜中新吾編 『中東政治研究の最前線：イスラエル／パレスチナ』	6. 最初と最後の頁 31-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 錦田愛子	4. 巻 -
2. 論文標題 中東政治と難民問題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鈴木董・近藤二郎・赤堀雅幸編 『中東・オリエント文化事典』	6. 最初と最後の頁 62-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 城山英明	4. 巻 -
2. 論文標題 多国間主義のレジリエンス - 重層性、専門家・地方政府ネットワーク、セキュリティ化、国内制度構造	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 反グローバリズム再考：国際経済秩序を揺るがす危機要因の研究 「世界経済研究会」最終報告書	6. 最初と最後の頁 221 - 242
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 城山英明	4. 巻 1149号
2. 論文標題 グローバルリスク・ガバナンスとその限界	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 142 - 165
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 城山英明	4. 巻 110巻7号
2. 論文標題 SDGs未来都市の系譜と今後の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 都市問題	6. 最初と最後の頁 51 - 61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Orsi Roberto	4. 巻 -
2. 論文標題 On the relevance of Carl Schmitt ' s concept ofGro?raumin contemporary international politics	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of International Political Theory	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1755088219874431	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 華井和代	4. 巻 18号
2. 論文標題 アフリカにおける気候変動と紛争	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 開発研究者協会 (SRID) ジャーナル	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹中千春	4. 巻 65号
2. 論文標題 「大国インドの再興」唱えるモディ首相	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 e - World Premium	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中千春	4. 巻 65号
2. 論文標題 「一帯一路」と対峙するインド 日本との協力で新たな意義	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 e - World Premium	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中千春	4. 巻 1巻2号
2. 論文標題 インドの政治 2019年総選挙へのダイナミクス	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Security Studies 安全保障研究	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清水展	4. 巻 100号
2. 論文標題 外部思考=感覚器官としての異文化・フィールドワーク:ピナトゥポ・アエタとの40年の関わりで目撃した変化と持続、そして私の覚醒	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東洋文化	6. 最初と最後の頁 41-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yee-Kuang Heng	4. 巻 -
2. 論文標題 Security Risks	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 リスク学事典	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計25件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 14件）

1. 発表者名 藤原帰一
2. 発表標題 Sustainable Development in Age of Deglobalization : The SDGs Mystery
3. 学会等名 科研費基盤研究 (A) 「気候変動と水資源をめぐる国際政治のネクサス - 安全保障とSDGsの視角から」第1回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideaki Shiroyama
2. 発表標題 Multilayered Multilateral Governance of Emerging Risks - Global Health, Climate Change and Artificial Intelligence
3. 学会等名 IIAS_Lien Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 城山英明
2. 発表標題 重層的多国間主義の強靱性
3. 学会等名 日本国際政治学会2019年度研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideaki Shiroyama
2. 発表標題 Governance of Interconnected Risks - Comparative Cases
3. 学会等名 The 2nd UTokyo-Copenhagen Conference on International Relations (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yee-Kuang Heng
2. 発表標題 National Risk Assessment Exercises and Existential Risks
3. 学会等名 Monash University Sustainable Development Institute Research Seminar Series, (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yee-Kuang Heng
2. 発表標題 AI and Climate Change in National Risk Assessment Exercises
3. 学会等名 2nd Copenhagen-UTokyo Workshop on International Relations (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Roberto Orsi
2. 発表標題 Japan's Foreign Policy: Strategies, Priorities, Challenges & Opportunities
3. 学会等名 Talk given at the Center for Education and Training, Ministry of Foreign Affairs of Indonesia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takeshi Wada
2. 発表標題 Violence, Protest, or Convention? A Comparison of the Strategic Patterns in Contentious Politics around the World
3. 学会等名 International Visiting Scholars Lunch Talks. Jack W. Peltason Center for the Study of Democracy (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takeshi Wada
2. 発表標題 Workshop on Protest Event Analysis in Latin America: An Introduction, Inquiry, and Invitation
3. 学会等名 The Annual Congress of the Latin American Studies Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takeshi Wada
2. 発表標題 Four questions about our analytical framework: Lessons from Latin America
3. 学会等名 Research Meeting of the SDGs Collaborative Research Unit
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 錦田 愛子
2. 発表標題 帰還をめぐる思い：シリア難民の移動に対する意識の比較分析
3. 学会等名 日本中東学会第 35 回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aiko Nishikida
2. 発表標題 Multi-level support system and its appreciation by Syrian refugees in Germany
3. 学会等名 The 10th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aiko Nishikida
2. 発表標題 After the Crisis in 2015 Adaptation of Syrian refugees in Germany
3. 学会等名 International Conference "Syrian Refugee Crisis: for Regional to Global Challenges" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aiko Nishikida, Hiroyuki Aoyama
2. 発表標題 A Comparative Study of Dynamics and Perception of the Syrian Refugees
3. 学会等名 The Global Syrian Refugee Crisis: Health and Socioeconomic Perspectives, Challenges and Opportunities, Gaziantep (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nazia Hussain
2. 発表標題 "Scarcity and Contention in Cities in the Global South: Evidence from Karachi and Manila"
3. 学会等名 The American Political Science Association Convention (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuya Nakamizo, Taberez Ahmed Neyazi
2. 発表標題 Populist Appeals and Party Support in Bihar
3. 学会等名 The American Political Science Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 2019 General Election and the Formation of the BJP system in India
3. 学会等名 2019年度アジア政経学会秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 BJPシステムの成立とマイノリティの将来
3. 学会等名 2019年度KINDAS研究グループ2 定例研究会「2019年インド第17次連邦下院選挙特集」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 民とは誰か？ーインドにおける宗教マイノリティの抑圧
3. 学会等名 日本政治学会分科会A-2「『民』の再定義に向けてー21世紀の民主主義における『民』の境界・条件・限界」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuya Nakamizo
2. 発表標題 New Strategy for Identity Formation: Analysis of 2019 Lok Sabha Election in India
3. 学会等名 ESRC under the UK-Japan SSH Connections Call (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuya Nakamizo
2. 発表標題 The Crisis of Indian Democracy: Strong State and Vigilante Justice
3. 学会等名 The 11th International Convention of Asia Scholars (ICAS) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹中千春
2. 発表標題 ジェンダーをめぐる人道的介入と平和構築の論理 - ボスニア紛争の南アジアへのインパクト -
3. 学会等名 日本国際政治学会2019年度研究大会ジェンダー分科会B-4「武力紛争後社会の変容とジェンダー」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉山昌広
2. 発表標題 気候工学 (ジオエンジニアリング)
3. 学会等名 エネルギー・資源学会 2019年度第4回エネルギー政策懇話会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazushige Nagano
2. 発表標題 Kashmir and Floods: Climate Change and New Risks on the Contested Land
3. 学会等名 The Third Research Meeting of the JSPS-Research Project "The Nexus of International Politics in Climate Change and Water Resource."
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Vindu Mai Chotani
2. 発表標題 Water Nationalism in South Asia: The Case of the Trans-Himalayan Tributary
3. 学会等名 The Third Research Meeting of the JSPS-Research Project “The Nexus of International Politics in Climate Change and Water Resource.”
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 藤原帰一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝日新聞出版	5. 総ページ数 312
3. 書名 不安定化する世界 何が終わり、何が変わったのか	

1. 著者名 錦田 愛子、小坂田裕子、近藤敦、久保忠行、佐伯美苗、白川俊介、陳天璽、床呂郁哉、飛内悠子、堀抜功二、柳井健一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 288
3. 書名 政治主体としての移民／難民	

1. 著者名 小泉 康一、錦田愛子、上野友也、浜本篤史、中村文子、池田丈佑、佐藤滋之、新垣修、杉木明子、森谷康文、藤巻秀樹、堀江正伸、伊藤寛了、宮塚寿美子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 408
3. 書名 「難民」をどう捉えるか 難民・強制移動研究の理論と方法	

1. 著者名 清水 展	4. 発行年 2019年
2. 出版社 九州大学出版会	5. 総ページ数 392
3. 書名 出来事の民族誌ーフィリピン・ネグリート社会の変化と持続ー	

1. 著者名 SHIMIZU Hiromu (清水 展)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 469
3. 書名 Grassroots Globalization: Grassroots Globalization : Reforestation and Cultural Revitalization in the Philippine Cordilleras	

1. 著者名 竹中千春、平島健司、久保文明、浜中新吾、中井 遼、宮内悠輔、杉田弘也、大澤 傑、五十嵐隆幸	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 248
3. 書名 アイデンティティと政党政治	

〔産業財産権〕

〔その他〕

SDGs協創研究ユニット「気候変動と水資源をめぐる国際政治のネクサス」 https://ifi.u-tokyo.ac.jp/projects/pol/ SDGs Collaborative Research Unit Project Page https://ifi.u-tokyo.ac.jp/en/projects/pol/
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	城山 英明 (Shiroyama Hideaki) (40216205)	東京大学・大学院公共政策学連携研究部・教育部・教授 (12601)	
研究分担者	ヘン イークァン (Heng Yee Kuang) (80780618)	東京大学・大学院公共政策学連携研究部・教育部・教授 (12601)	
研究分担者	ORSI ROBERTO (Orsi Roberto) (70838127)	東京大学・大学院公共政策学連携研究部・教育部・特任准教授 (12601)	
研究分担者	和田 毅 (Wada Takeshi) (20534382)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	
研究分担者	錦田 愛子 (Nishikida Aiko) (70451979)	慶應義塾大学・法学部(三田)・准教授 (32612)	
研究分担者	華井 和代 (Hanai Kazuyo) (10768013)	東京大学・未来ビジョン研究センター・特任講師 (12601)	
研究分担者	HUSSAIN NAZIA (Hussain Nazia) (30837860)	東京大学・未来ビジョン研究センター・特任助教 (12601)	
研究分担者	中溝 和弥 (Nakamizo Kazuya) (90596793)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授 (14301)	

6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	竹中 千春 (Chiharu Takenaka) (40126115)	立教大学・法学部・元教授・兼任講師 (32686)	
研究分担者	清水 展 (Hiromu Shimizu) (70126085)	関西大学・政策創造学部・特別任用教授 (34416)	
研究分担者	杉山 昌広 (Masahiro Sugiyama) (20503428)	東京大学・未来ビジョン研究センター・准教授 (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	Chotani Vindu Mai (Chotani Vindu Mai)	国際基督教大学・政治学・国際関係学デパートメント・特任助教 (32615)	
研究協力者	永野 和茂 (Nagano Kazusige)	立教大学・法学部・助教 (32686)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 「難民危機とシリア紛争のその後 ドイツに学ぶ難民受け入れの実情」 会場：東京大学本郷キャンパス 伊藤国際学術研究センター 地下ギャラリー1	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Ethnicity, Religion, Conflict and Violence in Postcolonial South and Southeast Asia: A Comparative, Interdisciplinary Study the third (London) workshop (ロンドン、イギリス)	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Ethnicity, Religion, Conflict and Violence in Postcolonial South and Southeast Asia: A Comparative, Interdisciplinary Study the second (Kyoto) worksho	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Solar geoengineering: Research needs and challenges of technology governance	開催年 2019年～2019年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------